

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○管理者・職員は地域密着型サービスでの役割を理解している。 ○事業所独自の理念を作成している。 ○理念を全職員で考え作成し浸透している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○理念は全職員に周知し共有化するための取り組みを行っている。 ○理念の意味を理解し日々のサービス提供場面に反映させている。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○玄関・ホールに掲示しており、誰でも見ることが出来るよう家族等への周知に努めている。 ○新たに入所する利用者・家族に対して、理念を説明し理解を求めている。	○個人情報がかからむ為なかなか難しいが、地域の駐在所・小学校・保育園・郵便局にも『郷便り』を配布している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	○日頃より近隣の人には気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。 ○地域の自治会に入会することで、一戸の家として扱ってもらい地域や町の行事の予定などの広報を配布してもらっている。 ○夏祭り・地域の花植え・草取り・クリーンアップ・保育園・小学校行事等に参加し交流を図っている。 ○実習生、ボランティアを積極的に受け入れたら、当地で行われる祭りには、地域の人たちに限らず高校生等のボランティアにも協力を頂きながらおこなっている。	○ ○事業所の立地する地域の自治会や民生委員、老人クラブ、商店等の地域資源に関わり理解してもらう事により、交流をもっと深める。 ○ボランティアや実習生を受け入れたら認知症の予防・普及活動への職員派遣を地域に還元する取り組みをする。 ○ホームの隣に居宅介護支援事業所を設け、いつでもどなたでも気軽に相談できる体制を整えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○	○今後も外部・内部研修により全職員が理解を深めるよう取り組み、活用できるようにしていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○運営者や管理者、職員は、担当職員の交代による利用者への影響を理解している。移動や配置換えについては利用者に説明している。新しく担当する職員には詳細に引き継ぎを行っている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○職員の質の確保、向上に向けた研修、力量や経験に応じた研修を全職員平均的に受講している。研修後は報告書を作成し全職員に報告し、日々のケアに活かせるよう周知している。 ○研修受講の際には、日々のケアに支障を来たさないように勤務体制等に配慮している。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○八戸地区のグループホーム協会に加入しネットワーク作りや勉強会に参加している。法人内外のグループホームとの連携をとり、日々のサービスの向上や職員の育成につなげている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	○日常的・面談等で運営者や管理者が職員の悩みやストレスを聞いている。法人の親睦会等においてレクリエーションなどを行いストレス解消につなげている。	○	○運営者や管理者は職員の悩みやストレスの背景を理解し、解消につなげる取り組みを行う。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○健康診断の実施等職員の心身の健康を保つための体制を整えている。 ○労働基準法に則って、職員の労働条件を整えている。 ○就業規則があり守られている。		○運営者は現場の状況のほか、職員の日々の努力や勤務状況を把握する。 ○運営者は保有資格者を活かした職員配置とする等、職員のやりがいや向上心が持てる職場環境となるよう配慮する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○サービス利用の相談があった時には利用希望者や家族と面談する等、直接話しを聞き対応し出来るだけ本人、家族等の希望や思いに沿うように努めている。 ○相談を受ける際には、利用希望者や家族との信頼関係をきずくことを意識しながら対応に努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○相談時、利用者や家族のニーズに対して、その時点で何が必要かを見極めている。 ○必要に応じて、地域包括センター等の関係機関との連携を図り、他のサービス機関に移行する支援を行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○利用者・家族等双方の意向に沿ったサービス開始になるよう話し合いをし、調整している。 ○利用相談時に自宅を訪問し日頃の暮らしぶりや意向を把握したり、利用者が安心して生活できるよう入所前に居室を見学してもらおう等の支援を行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○利用者と一緒に調理、裁縫、園芸を行うなど常にコミュニケーションをとり、喜怒哀楽を共感し理解するよう努めている。また、利用者との会話の中で得意分野を引き出すなど、学んだり支えあう関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○面会・電話等で利用者の様子や、職員及び家族の思いや気づきを共有し利用者を共に支える関係を作っている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○利用者と家族のこれまでの関係や、双方への思いを把握している。毎月、個人通信・ホーム便りを郵送し日々の様子を伝え、面会に來れない家族とは双方で電話連絡を行い、良い関係を築いている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○利用者が関わってきた人や馴染みの場所等がある程度把握している。 ○家族からも協力を得て馴染みの人が面会にきてくれている。 ○利用者の希望に応じて行きたい場所に出掛けるようにしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○職員は利用者同士が共に助け合い支えあって暮らしていくことの大切さを理解している。ひとりひとりの出来ること、できない事、人間関係等を把握しており互いにより良く暮らすため、一緒に作業をしコミュニケーションを取っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○サービス利用が終了する前後とも、利用者・家族が不安にならないように相談や支援を行っている。○施設外で家族に合う事もあり、声掛けをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○利用者・家族の希望や思いに沿うように努めている。困難な場合には、利用者の視点に立って考え、家族に相談したり全職員で話し合い検討している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○利用者のプライバシーに配慮しながら、利用者・利用者の家族やケアマネージャー等から情報収集を行い把握している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○一日の暮らし方、生活リズムを把握し、利用者の出来ること、わかる力を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○介護計画作成時には、利用者がその人らしく暮らし続ける事が出来るよう、本人・家族・職員と話し合い介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○介護計画の実施期間を明示し期間終了後には評価をし見直している。状態の変化や家族の要望等がある時は随時見直し、再アセスメントを行い作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
38	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
39	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○特別行っていない。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○これまでの受療状況を把握している。 ○利用者や家族が希望する医療機関を受診し、定期的な受診・往診のほか、体調の変化や心配ごとがあるとき等にはいつでも医療機関に気軽に相談したり受診している。通院方法や受診結果についても報告し、必要時は話し合いを行うなど納得が得られている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	○認知症の人の医療に熱心で一人一人に応じた指示や助言をしてもらい対応してもらっている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	○看護婦の配置はしておらず、医療機関に直接電話をし相談や指示をを仰いでいる。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	○医療機関と利用者に関する情報交換や、状況に応じて早期退院に向けた話し合いを家族も含めてしている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や急変時の対応について家族・医療機関と話し合い意思統一を図っている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○事業所として対応が可能なこと、困難なこと、不安なことを職員間で話し合い管理者に報告し、法人全体で支援に取り組んでいる。 ○利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族と連携を図りながら支援していく体制をとっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○職員は利用者が別の場所に移りすむことによるダメージを理解している。 ○ダメージが最小限とする為に、家族等の協力が得られるよう働きかけ、プライバシーに配慮し利用者の状況や習慣・好み・これまでのケア方法等について、移行先へ詳細な情報提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○年長者と接する上で常識かつ適切な声掛けをしプライバシーに配慮した対応を心掛けている。 ○個人情報適切な場所に保管している。 ○ケア会議等で利用者の接し方について話し合いをしている。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○利用者との日々の関わりや家族からの情報により思い、希望等を把握している。 ○自己決定が出来るようコミュニケーションを図り、話しやすい場面作りに心がけ、意思表示が出来ない場合でも、表情や態度から希望等を把握するよう努めている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人一人のペースや要望を大切にし、利用者の訴えを後回しにしないよう常に心掛け、利用者に合わせた支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○利用者の個性や希望等を尊重し、利用者の好みで服を選んだり、おしゃれが出来るよう支援をしている。 ○衣類や整容の乱れにはさりげなくサポートしている。 ○理容・美容は希望する店に行ける体制を整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○利用者の希望、好み、苦手なものに配慮し、状況、意思、力量等に応じて調理準備や後か付け等を促し職員も一緒に行っている。職員も利用者と同じテーブルで、持参した弁当を食べながら、食べこぼし等へのサポートを行い、会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。	
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○特に規制はしておらず利用者の状態に配慮し、出来る限り好きなものを取り入れている。ただし、医師や家族の指示、助言によるものは遠慮して頂くことがある。	
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○一人一人の排泄は記録し把握している。 ○排泄パターンに応じて事前誘導を行う等、自立へ向けて支援を行っている。 ○尿意や便意の確認時、誘導時、失禁時の対応は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、他の利用者にきずかれないよう速やかに行っている。	
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○毎日、いつでも入浴できる体制になっている。契約時に利用者や家族から入浴習慣等を聞き、拒否する利用者にも声掛けや対応等の工夫を行っている。○羞恥心等に配慮しながら支援をしている。	
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○作業やコミュニケーションを凶り昼夜逆転にならないよう心掛けている。○外出や面会、その日の疲れ具合に応じて柔軟に休息を入れている。入居する前から眠剤を服用している利用者もあり、日中・夜間の睡眠状態等の観察をし、家族や医療機関と相談しながら服用等について調整を行い、生活のリズムを整えるよう支援している。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○利用者の生活歴・希望・力量を把握し、畑仕事・食事の準備等の役割など、本人の楽しみごとを促し利用者も役割を理解し生活をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○利用者の力量や希望、家族の希望等に配慮しながら、お金を所持している方もいるし、紛失やトラブルを考慮し全額預かっているかたもいる。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○利用者の希望を取り入れ、身体状況をにあわせた移動方法や移動距離に配慮した支援を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○花見、さくらんぼ狩り、ぶどう狩り、祭り等の季節を盛り込んだ外出をしたり、町の敬老会へ家族と出かける等の支援をしている。これも利用者の希望に合わせて行っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○利用者自ら電話を掛ける方は掛けている。掛けられない場合でも連絡取れるよう支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○いつでも訪問できるように支援している。気軽に会話ができ、場所を提供し落ち着いた雰囲気作りを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○運営者及び全職員は、身体拘束の内容や弊害について理解していて、身体拘束は日々行わないという姿勢で支援をしている。やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えてマニュアルがあり、家族にも説明し同意得る体制を整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○日中は鍵を施錠はせず、自由に入出りできるようにしている。外出傾向を察知できるよう見守りを行い、察知した時には職員が付き添い支援している。近隣の方も協力してくれている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○昼夜共に利用者を見守りやすい場所に居て、利用者の様子を把握し、本人や家族に緊急時や夜間の定期的な巡視等について居室を訪れたりすることも説明し理解を得ている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○一人一人の状態に合わせ、本人・家族の了解のもと職員が預かっている。薬・洗剤・刃物等については保管場所・管理方法を取り決め危険を防ぐ取り組みをしている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○利用者の状況に応じて想定される事故を職員間で共有し日頃から事故防止に努めている。もし事故や危険性があつた場合は、事故報告書・事故対策書・ヒヤリハット報告書を提出し全職員に周知している。報告書等は常時確認できる場所に保管している。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○夜間の対応も含め、緊急時対応マニュアルを掲示し全職員に配布している。応急手当や救命救急等の研修を受けたり、伝達を行っている。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○いざという時に適切な避難ができるよう、毎月、職員と利用者が一緒に避難訓練を行っている。年に一回、消防署へ依頼をし消防訓練を行い総評をしてもらい今後に役立てている。。地域の方からも協力を得られるようお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	○利用者一人一人に起こりえるリスクを把握するとともに、契約時、状況変化に応じて家族にも説明し理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○一人一人の持病や留意事項を把握し、異変の兆候を見落とさないよう、常に顔色や様子に注意を払っている。変化や異変の兆候があった場合には記録に残すとともに全職員で共有し、家族に連絡し医療機関に相談・指示受けし必要に応じて受診をしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○全利用者の薬の内容を把握できるよう取り組み、飲み忘れや誤薬がないよう体制を整えている。薬の変更時には家族へ報告し、職員にも周知し服薬による状態の変化時には記録に残し、家族や医療機関に報告・相談をし調整をしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○便秘の原因や及ぼす影響を理解し、一日の食事量や排泄チェックを行い、水分補給や運動等を促している。下剤服薬者や便秘ぎみの方は医療機関と相談・指示受けし、下剤の使用量・頻度を調整している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○口腔内の手入れの必要性を職員が理解し、一人一人の習慣や意向を踏まえ、声掛けや一緒に行う等、能力に応じた支援を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○外部の栄養士に栄養等のバランス・旬の食材・好物等を取り入れた献立を立ててもらい、摂取量・体重等を報告し、給食会議等を設け支援している。食事は1600cal、水分は1000mlを目安に提供し、摂取量を記録し状態を把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	○感染予防のマニュアルを作成し、必要に応じ会議を設けたり研修を行っている。早めの対応を心がけホール内に掲示し来所する方にも周知している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○食材の品質・賞味期限をチェックし使用している。台所用品等も殺菌し清潔に保っている。 ○定期的に冷蔵庫を整理し、清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○玄関の内外に植物を置いたり手すりがあり、利用者や家族、近隣のお年寄りも気軽に出入りできるようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○共有空間には食卓やソファや畳敷きの小上がり、囲炉裏等を設置し家庭的な雰囲気作りをしている。窓から入る陽射しはカーテンで調節し、室内の明るさも配慮している。職員の声・テレビの音量等も適切にし、心地よく暮らせるように心掛けている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○利用者同士が団らんでできるスペースを確保し団らんしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	○入居時等に新たに購入するのではなくできる だけ自宅で使用していたもの、馴染みのものを持 ってきてもらうよう働きかけている。基本的には利 用者の好きなように居室を使用してもらっている が、居室への持込が少ない利用者には意向をを確 認し、利用者が居心地のよい居室作りを職員と一 緒に行っている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	○においや空気のだよみがないよう換気をし、 温・湿度計を設置し適宜確認しながら、利用者 に合わせた温・湿度管理を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	○利用者の安全や使いやすさを考慮し、必要に応 じ新たに取り付け調整をするなど暮らしやす いように努めている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	○利用者の混乱や失敗が続かないよう職員間で話 し合い利用者を傷つけないよう配慮しながら、自 立しくらせるよう支援している。場所間違いを防 ぐために、必要な場合には個々に合わせた表示 をつけるなどの取り組みも行っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	○庭に花や野菜を植え収穫を職員と一緒に 行ったり、ベンチ等を設置し外でおやつや食 事をとれるなどゆっくと過ごせる場として敷 地内を活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○家に居るような感覚で生活してもらうこと。かかりつけの医療機関と相談したりメールで情報交換ができていること。